市川昔がたり⑯

初代轟木小校長　藤澤茂助のはなし（Ⅱ）

多賀台　奈良孝次郎

【塾教師として轟木村へ】

斗南藩士としての生活に藤澤茂助の助けになったのは、**会津藩時代**に藩校「**日新館**」で学んだ学問や教養でした。家族4人を抱えて苦労していた茂助のもとに、塾（寺子屋）教師をしないかと声がかかります。それは、轟木村の有力者「**鈴木清麓**」からで、教場もあり生徒もいるが講師の人だいないというものです。

その要請を入れて、茂助は家族と共に教場のある轟木村（高丁場…現在の轟木上町内）へ移住（明治5•1872年）し、その後轟木で暮らします

【教師としての茂助】

初めての学習塾であった教場は、教育制度が変わり小學と改められ、**轟木小學**となり、茂助は校長、そしてひとりだけの教員でした。生徒ははじめ10名ぐらいからしだいに増えていきます。

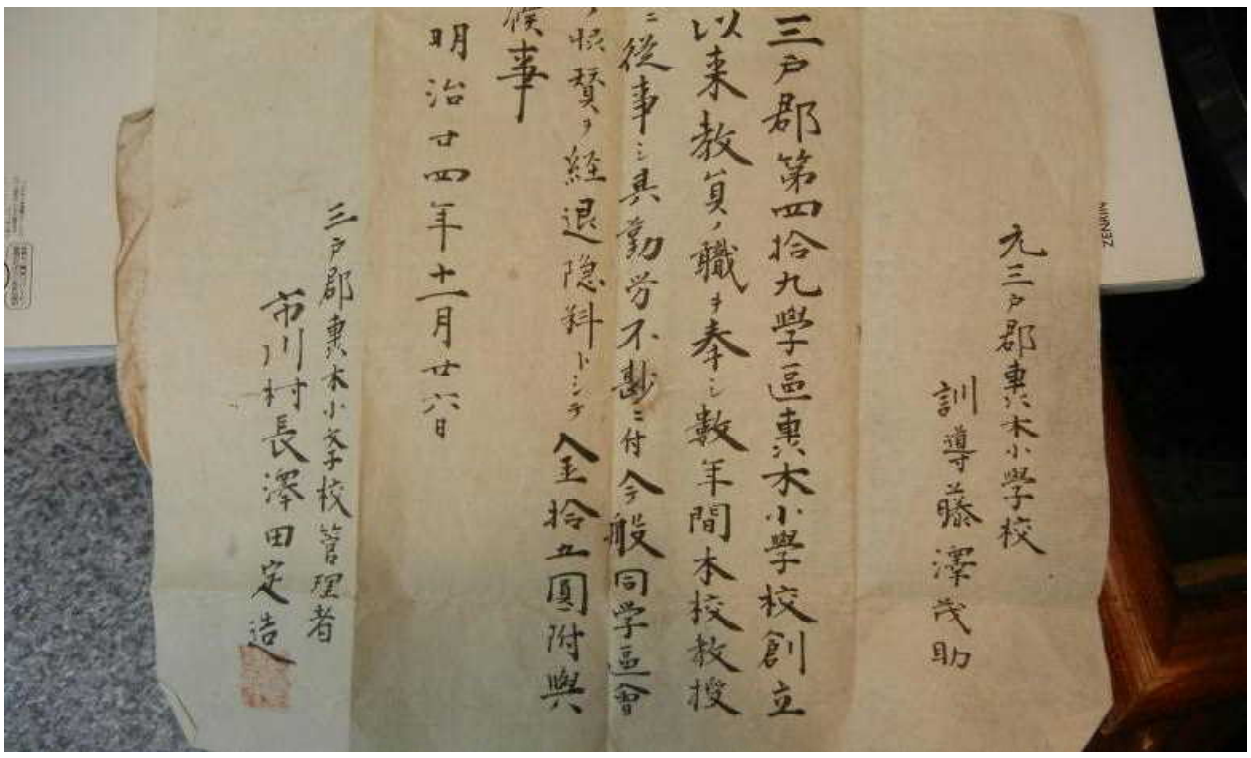
教師としての茂助は大へん熱心であり、生徒の態度にふまじめな行いがあったりすると、持っていた唐竹ではげしく教卓をたたきました。その際の音と白髪をふり乱した茂助の姿には、「怖かった」と卒業生が後年述懐しています。

【資格が必要だった】

茂助はきびしかっただけでなく、新しい時代の学習を習得するために、熱心に努力したようです。当時は新しい教育制度がスタートしたばかりで、学資内容もよく変わりました。そのために資格をとる必要があり、茂助もそのことに取り組んでいます。

その結果、明治9年（1876）には5等教員、明治13年（1880）には3等教員と資格を上げていき、明治15年（1882）には、中等科教員も手に入れています。（次号に続く。）

藤澤茂助の表彰状　⇒



【参考】
☆「はちのへ町内風土記」（デーリー東北）
☆「とどろき百年」（八戸市立轟木小学校）
☆「流れる五戸川」（続20号）　☆「続はちのへ今昔」（2005年8.9月号）
【お話と資料】　★**藤澤茂登**氏 ：（おいらせ町•藤澤製菓）